



2024/10/27

「エンデュランス馬術体験会@八ヶ岳」 レポート

第2回エンデュランス馬術競技体験会を開催しました。

朝9時半、カナディアンキャンプ乗馬クラブ八ヶ岳に集まったご参加の4名はあちこちで外乗を楽しまれているお仲間同士、モンゴルに行かれた経験もある方々です。

当日は薄曇りで絶好のエンデュランス日和、紅葉が始まった小淵沢、八ヶ岳もよく見えていました。

集合後は簡単な自己紹介から始まり、エンデュランス競技の魅力と注意点をお伝えしました。

エンデュランス競技の魅力は①大好きな馬と長い時間一緒に過ごせる競技である、②騎乗だけでなく、準備やケアなど、馬について総合的に知ることができる、③馬に優しい、馬のウエルフェアを大切にする競技である、です。

そして、エンデュランス競技の注意点として①ライダーには危険の多い野外のコースで人馬の安全を確保する責任がある、②他競技と違い、他の人馬と同時進行で行われる競技であるため、どんな状況にも対処する技術が求められる、③他のアウトドアスポーツと同様、危険を伴う競技である、です。

皆さん初めて聞く話に頷きながら、楽しみな気持ちと緊張感をもって、共に過ごす4頭の馬たちと対面しました。

4頭の馬たちは実際に競技に参加したことのあるベテランホースたち。

落ち着いた様子に「可愛い〜」「よろしくね〜」と歓声があがります。

まずはブラッシングから始め、検温・心拍確認といった、エンデュランスに必要な馬のケア。

皆さん初めてのことながらセンスが良く、次々にこなしていききました。

次にリーディング。これも初めての経験でしたが、それぞれご自分の馬を馬場まで引いていき、インスペクションを受けます。

歩様検査のための速歩のリーディングは1回お手本を見た後、挑戦します。

「群れのリーダーになったつもりで!」「リードはもう少し長めに!」

「馬の顔を見ず、前を向いて!」「思いっきり!速く!」

指導のための声が飛び交い、お互いの様子から学んだりしながら、

みなさん自分で歩様検査を受けることができました。





心拍、腸音、粘膜、毛細管再充満、皮膚つまみ、肛門反応、CRI 等々…これって、エンデュランスをやっている人でも正確に理解していない用語ですが、この意味や、自分の馬の状態について獣医さんと話しながら検査を受けていました。

実際の競技中は競技の公平性の面から、獣医さんも審判も、技術的なことを選手に伝えにくいところがありますが、今日は体験会。

「この馬はこういう状態だね」「こういうところ気をつけましょう」「こうすれば良くなるよ」等、これから騎乗する馬を前にしてのホーストークが弾む時間は、今回のような体験会の良い所だと思いました。

さて、いよいよ準備完了、大会と同じようにゼッケンを身につけて START です。
経験豊富な皆さんは、すぐに馬とのコミュニケーションをとっていました。



今回は10キロほどのライド、八ヶ岳大会で使用しているコースの一部を回ります。
信玄棒道、県馬術競技場、沢渡りあり、トンネルあり、交差点横断あり、アップダウンあり…
紅葉が始まり、ススキの穂が揺れる綺麗なコースでしたが、たまたま遭遇したのは選挙の街頭演説。
目の前を通過しなければならず、なかなかテクニカルなライドになってしまいましたが、これも一興 ww、無事に通過します。

下り坂も速歩で下り、先頭の入替え等も経験しながら1時間15分ほどで GOAL しました。





いつもの外乗ならこれで無事おしまい、ですが、エンデュランスはここからが勝負です。
「20分以内に馬装解除、馬のケアをして、心拍を確認してインスペクションを受けてください!」と号令がかかります。



「結構汗かいている〜」「バケツの水、一気に飲んじゃった!」
たった2時間程前には、おそろおそろ馬に触れていた方達とは思えない、
テキパキした動きで馬のケアに動き回ります。
10分程で心拍を確認すると、続々と最終インスペクションへ。
インスペクションでの動きも走行前とは別人のようですww。



さて、3頭が無事合格し、いよいよ最後の1頭。
心拍数を確認し、歩様検査・・・となった時、「ん!？」と獣医さん呟きます。
「これは、もう1回お願いします」と再度の歩様検査となりました。

体験会であっても、馬のウエルフェアに関する部分では妥協は許されません。

驚いている選手に状況を説明し、もう1回歩様検査に挑みます。

本番の競技でも緊張が走る場面ですが、見事に速歩でリーディングしました。

僅かなイレギュラーが見られる歩様でしたが、継続的な異常ではなかったので評価は「B」で無事合格、結果、全人馬完走です!

今回の体験会を通じて筆者が一番嬉しかったことは、人と馬の距離がみるみる近づいていくことが手に取るようにわかったことです。
人と馬の距離の密接さ、一体感…これこそがエンデュランス競技の最大の魅力なのだと再認識しました。
アンケートでは「有意義だった」「速歩の継続は辛い」「やっぱり大変そう」「実際のトレーニングの話が聞きたかった」「反撞が高く大変だった」など、
様々なご意見をいただいています。

エンデュランス・ライドの楽しさを知ってもらい、参加者を増やすことを目指している本協会では、今回のような講習会をこれからも各地でおこなっていきたいと考えています!

文責：日本エンデュランス・ライド協会 谷



Copyright © 2024 Japan Endurance Ride Conference. All Rights Reserved.